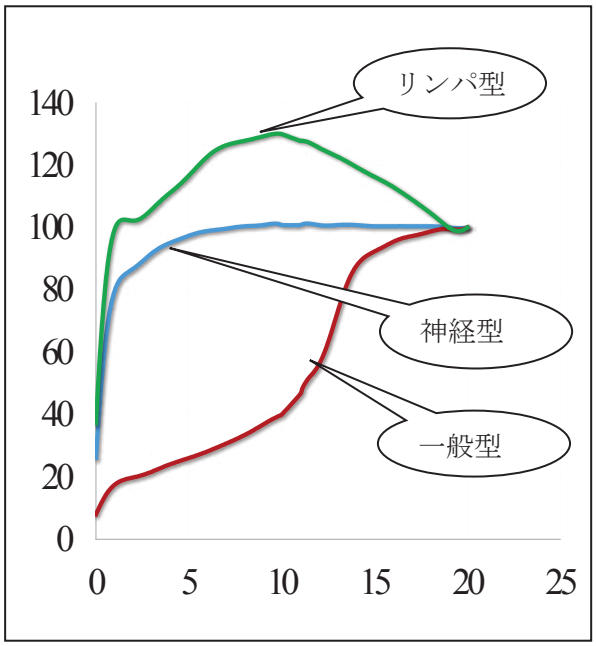
H09 Fujimmonの発育曲線

経営学部・経営学科・教授・藤井　勝紀
fujii@aitech.ac.jp

キーワード　Scammonの発育曲線、ヒトの発育標準化曲線、ウェーブレット補間モデル

概要

発育現象を科学的に解明しようとする試みは古くから行われてきたが、しかし、1930年にScammonがヒトの発育曲線を提唱した。このヒトの標準発育曲線が現在でも都合よく使用されてきた。確かに発育現象を説明するには都合が良いが、科学的な有効性が欠如している。そこで、新たにScammonの発育曲線を再検証し、ウェーブレット補間モデルによって、科学的な発育曲線を記述することで、Fujimmonの発育曲線を提唱した。右図がFujimmonの発育曲線であるが、一般型、リンパ型、神経型の3パターンに集約し、ヒトの標準化発育曲線として提唱するに至った。



セールスポイント

1．Scammonの発育曲線を現代版として科学的な手法から記述できた点。
2．現代における発育現象を科学的に説明できる点。
3．ヒトの出生後の発育における概観が理解されやすい。
4．ヒトのプロポーションの変化を説明するためには、神経型、一般型の発育パターンの相対的な発育から科学的に説明できる唯一の方法である。

企業等での活用例、今後の展望等

1．企業にとってHuman resourceの重要性からみれば、ヒトの出生後の発育を理解するには必要な発育グラフである。
2．Scammonの発意曲線の改訂版としての意義があり、企業における健康経営のためには科学的根拠のあるヒトの発育標準化を知っておくことは重要である。
3．ウェーブレット補間モデルによって記述された関係上、さらに精度の高いグラフの記述が望まれることになる。